

算数授業のめあてとポイント

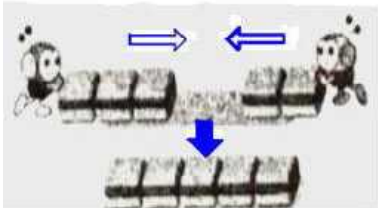
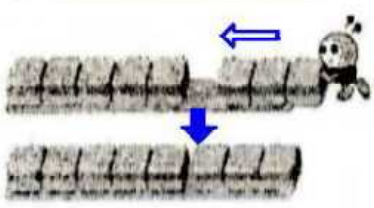
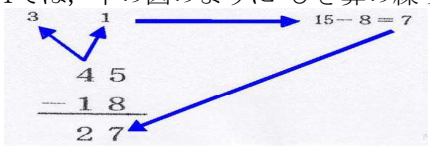
令和8年5月号

東京書籍対応

☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようにしましょう。

※ 「単元のめあて」枠内の漢字に、ルビを振っている箇所があります。ひらがなと漢字のどちらを使うかは、学習進度などを勘案して指導者で判断して下さい。

(K・・・啓林館, G・・・学校図書, T・・・東京書籍)

| 学年 | 単元 | 単元のめあてと授業のポイント |
|----|----------------------|--|
| 1年 | 1巻② なんばんめ | <p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> なんばん目と なん^め人^{にん}(なんこ)のちがいをかんがえて、はなそう。 </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p. 34～35では、数学的活動を通して順序数と集合数の違いを理解し、説明できるようにする。「～め」がつくと、その人(物)だけを表す。 ・ p. 36～37では、実際に児童が1列に並んだり具体物や半具体物を並べたりする活動を通して、物の方向や位置が実感的に捉えられるようにする。 |
| | 同様単元 K5月② G5月③ | <p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> あわせたり ふえたりするといくつになるか、もとめかたをかんがえて、はなそう。 </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p. 2～8では、あわせる(合併)・ふえる(増加)という動きをブロックで実際に行うことで、その意味が実感的に捉えられるようにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>あわせる(合併)</p>  <p>3 + 2</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ふえる(増加)</p>  <p>5 + 3</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">どちらも数の合体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『たし算のお話 ⇄ ブロックの操作に結び付ける。⇄ 式に表す』の3点セットが大切である。 → 1巻①「なかまづくりとかず」の学習を生かし、補数を用いて幾つになるかを話すようにする。 |
| 2年 | 上巻③ ひき算の ひっ算 | <p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 2けたまでの数からひく^{かず} 計算のしかた^{けいさん}をかんが^{かんが}えて、せつ^{めい}明しよう。 </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p. 25～28では、同じ位ごとに引くという考えから、たし算と同様に筆算に導く。 ・ p. 29～31では、下の図のようにひき算の繰り下がり³の1を上に書くと間違いが少なくなる。 <div style="text-align: center;">  <p>図</p> </div> <p>15 - 8 のような繰り下がりが理解できていない場合は、1年⑬「ひきざん」(11月号参照)の学習に戻って理解し、説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p. 32～33では、ひき算の答えの確かめをする場面で、答えにひく数を足すとひかれる数に戻ることが、十分に経験できるようにする。 |

同様単元

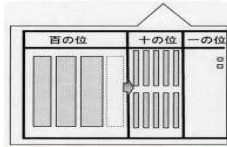
◎授業のポイント

K5月③

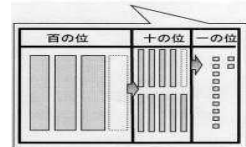
G5月④

- ・筆算の計算に入る前に、2年⑬「4けたの数」までに身に付けた「あるものを単位として その個数を足したり引いたりする」という考えを想起して、「100を単位にすれば1年の加減で簡単に計算できる(算数のアイデア)」ことに気付くようにする。この考えは、小数のたし算ひき算でも役立つ。
- ・p. 48～49では、「402-175」のような十の位が0になっている3桁の数から繰り下げる計算は、2年の「102-75」のような計算と同様に難しいので、補助計算だけでなくブロックの操作ともつなげて理解し、説明できるようにする。

$$\begin{array}{r} 402 \\ - 175 \\ \hline \end{array} \rightarrow \begin{array}{r} 3102 \\ - 175 \\ \hline \end{array} \rightarrow \begin{array}{r} 3102 \\ - 175 \\ \hline 1327 \end{array}$$



百の位の4本のブロックのうち1本を
十の位のブロック10本に置き換える。



十の位の10本のブロックのうち1本を
一の位のブロック10個に置き換える。

- ・p. 49～51では、3位数までの加減の計算の仕方を基にして4位数の加減の計算の仕方を理解し、説明できるようにする。

4年

上巻②

- ・4月号参照

上巻③

わり算の
筆算(1)

◎単元のめあて(板書例)

(2けたの数や3けたの数)÷(1けたの数)の計算のしかたを覚えて、説明しよう。

同様単元

K5月③

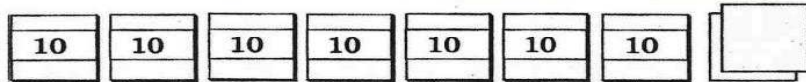
G4月③

5月⑤

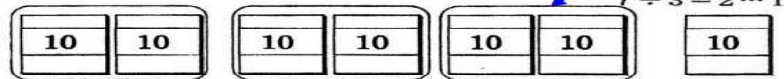
◎授業のポイント

- ・p. 39～42では、「大きい位から小さい位へ九九を用いて割っていく」という考えで、(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を理解し、説明できるようにする。

《72÷3の場合》図の考えと筆算の形式を関連付けて指導する。

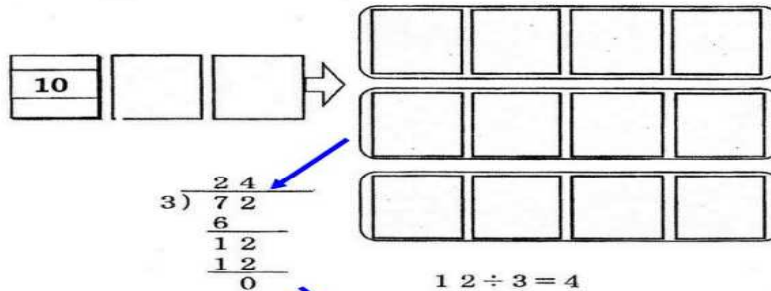


①まず10の束7個を3人で分けましょう。



一人分は、10の束2つで、10の束1つ余る。

②余った10の束1つとばら2枚を合わせた12枚を3人で分けましょう。



1人分は、10の束2つと4枚で、24枚になる。

- ・p. 45～49では、上の(2位数)÷(1位数)と同様の考えで、(3位数)÷(1位数)の筆算の仕方を理解し、説明できるようにする。

5年

上巻②

- ・4月号参照

上巻③
比例

◎単元のめあて(板書例)

ともなうて変わる2つの数量を見つけ、表や式に表して変化のきまりを考え、説明しよう。

同様単元

◎授業のポイント

K5月③
G4月③

・伴うて変わる2つの数量を見つけ、表や式に表して 比例の係数や変化のきまりを考え、問題解決やその説明に活用できるようにする。

上巻④
小数の
かけ算

◎単元のめあて(板書例)

小数をかける 計算の意味や計算のしかたを考えて、説明しよう。

同様単元

◎授業のポイント

K5月④
G6月⑦

・小数・分数の かけ算わり算の指導・支援に当たっては、児童が計算の意味や計算のしかたを主体的に考え続けられるように 関連単元全体に渡うて計画することが大切である。

2・3年 整数の乗法・除法

4年 整数の除法 商が小数になるわり算は、小数を用いた いくらに当たる (何倍・割合)かを求める わり算と考える。

小数が乗数・除数になれるように意味を広げて

5年 乗法 小数のかけ算は、小数を用いた いくらに当たる大きさ(比べる大きさ)を
求める かけ算と考える。

除法 小数のわり算は、

等分徐 → 小数を用いた 1に当たる大きさ(基にする大きさ)を
求める わり算と考える。

包含徐 → 小数を用いた いくらに当たるか(何倍・割合)を
求める わり算の意味のままで。

5年と同じ意味で分数の乗法・除法へ

6年 乗法 分数のかけ算は、分数を用いた いくらに当たる大きさ
(比べる大きさ)を求める わり算の意味のままで。

除法 分数のわり算は、

等分徐 → 分数を用いた 1に当たる大きさ(基にする大きさ)を
求める わり算の意味のままで。

包含徐 → 分数を用いた いくらに当たるか(何倍・割合)を
求める わり算の意味のままで。

※基本的には5年で意味を広げ、6年では同じ方法を用いて児童が自ら解けるようにしたい。
そこで、小数から分数までの一貫した考えに立った指導が必要になってくる。

考えには、次の2通りがある。

(A: 単位小数, 単位分数の考えで計算する。)
(B: 整数化して形式的に計算する。)

※A, Bいずれにしても、計算の意味を考えて
理解できるようにしておくことが大切である。

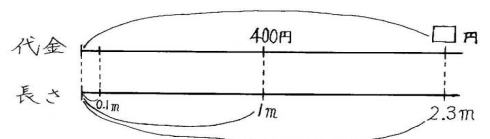
小数のかけ算【いくらに当たる大きさ(比べる大きさ・何倍)を求める】

(例)「1mが400円のリボン2.3mの代金は?」

図から「 $400(\text{円}) \times 2.3 = \square(\text{円})$ 」

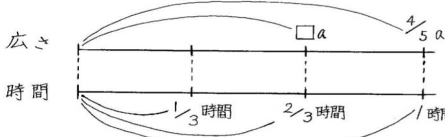
↓

「 $400 \times 2.3 = \square$ 」と立式する。



A まず、0.1m当たりの値段を求め、
それを23倍して
 400×2.3
 $= 400 \div 10 \times 23$
 $= 920$

B まず、23mの値段を求め、
それを10で割って整数化して
 400×2.3
 $= 400 \times 23 \div 10$
 $= 920$

| | | |
|----|--|---|
| | | 《 HP算数教育 情報コーナー参照 》 【 主体的に考える子どもを育てるための小数・分数のかけ算・わり算の指導・支援の方法 】 【 「倍の意味」の捉え直しによる4年「小数を用いた倍」から5年「×小数」「÷小数」への指導 】 |
| 6年 | ② 文字と式 同様単元 K4月② G4月② | ◎単元のめあて(板書例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> x や y などの文字を使って 数量の関係を式に表し、問題を解き方を考えて、説明しよう。 </div> ◎授業のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・ p. 25～26では、「□×6」等の式で、□に様々な数を当てはめ この□を x とすることで、x が変数であるという意識がもてるようにする。 ・ p. 27～28では、「□×6」等の式を「x×6」と置き換え、「x×6」等を y とすることで、変数 x と変数に伴って変わる数 y (従属変数) とが意識できるようにする。 |
| | ③ 分数の かけ算 同様単元 (分数×整数) K5月③ G5月③ (分数÷整数) K5月③ G5月③ (分数×分数) K5月④ G6月④ | ◎単元のめあて(板書例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> (分数×整数)(分数÷整数)(分数×分数)の 計算の意味や計算のしかたをを考えて、説明しよう。 </div> ◎授業のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年「小数×小数」「小数÷小数」と同様に、一貫した考え方に立った指導が大切になってくる。 ・ 5年④「小数のかけ算」(今月号)参照 ・ p. 33～35「分数×整数」では、単位分数の個数を計算する。 (例)「1時間当たり $\frac{3}{5}a$ ほそうする機械で 4時間ほそうすると、何 a ほそうするか。」 $\frac{3}{5} \times 4 = \frac{1}{5} \times (3 \times 4) = \frac{12}{5}$ ・ p. 36～37「分数÷整数」では、まず、単位分数の個数が整数で割れる場合を扱う。 (例) $\frac{4}{5} \div 2 = \frac{1}{5} \times (4 \div 2) = \frac{2}{5}$ ・ 次に単位分数の個数が、整数で割り切れない場合を扱い、等しい分数の考えを活用して、割れる範囲を広げる。 (例) $\frac{4}{5} \div 3 = (4 \times 3) / (5 \times 3) \div 3 = \frac{4}{5 \times 3} = \frac{4}{15}$ ・ p. 39～43「分数×分数」では、【いくらに当たる大きさ(比べる大きさ・何倍)を求める】 (例)「1時間当たり $\frac{4}{5}a$ ほそうする機械で $\frac{2}{3}$ 時間ほそうすると、何 a ほそうするか。」 図から「$\frac{4}{5} \times \frac{2}{3} = \square$」と立式する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: left;"> <p>広さ</p> <p>時間</p> </div>  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>A まず、$\frac{1}{3}$時間当たりの広さを求め、それを2倍して</p> $\frac{4}{5} \times 2/3$ $= \frac{4}{5} \div 3 \times 2$ $= \frac{4}{5 \times 3} \times 2$ $= \frac{4 \times 2}{5 \times 3}$ $= \frac{8}{15}$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>B かける数を整数化して</p> $\frac{4}{5} \times 2/3$ $= \frac{4}{5} \times (2/3 \times 3) \div 3$ $= \frac{4}{5} \times 2 \div 3$ $= \frac{4 \times 2}{5 \div 3}$ $= \frac{4 \times 2}{5 \times 3}$ $= \frac{8}{15}$ </div> </div> |
| | | 《 HP算数教育 情報コーナー参照 》 【 主体的に考える子どもを育てるための小数・分数のかけ算・わり算の指導・支援の方法 】 【 「倍の意味」の捉え直しによる4年「小数を用いた倍」から5年「×小数」「÷小数」への指導 】 |

<お知らせと お願い>

「算数授業のめあてとポイント」や「算数教育 情報コーナー」等を ご覧いただき、日々の実践に役立ててください。

なお、これらについてのご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は、

seiden_atmark_po.harenet.ne.jp まで Mail でお知らせ下さい。

(スパム対策です。お手数ですが_atmark_を、@に直して下さい。)